

● 診療科の特色

当科は2019年3月以降、常勤医が1～2名に減員となっていたが、2022年12月によりやく元の常勤医3名体制に戻り、急患の受け入れも滞りなく行っていた。しかし、2023年11月以降は再び減員となり、現在は常勤医2名の体制となっている。手術中など、急患受け入れ体制にわずかに影響はあるものの、可能な限りお断りしない診療を継続している。

診療内容としては、これまでと同様に出血性脳卒中(脳出血およびくも膜下出血)、脳腫瘍(原発性および転移性)、頭部外傷を中心として手術治療ないし保存的治療を行っている。手術においては、術中に脳の血流を描出したり腫瘍と脳との境界を明瞭にすることを可能とする新しい顕微鏡を2020年から使用しており、また、2023年からは術中に神経機能を監視できる装置を導入して、これらを駆使することで、これまで以上に安全・確実な手術が行えるようになっている。最近では、頸動脈狭窄症による虚血性脳血管障害に対する頸動脈血栓内膜摘出術や、『手術で治せる認知症』と言われる正常圧水頭症に対するシャント手術、三叉神経痛や顔面けいれんに対する微小血管減圧術なども、適応症例があれば積極的に行っている。また、当院は、小児医療に関して地域の中核的な存在であり、当科でも小児の脳神経外科治療を積極的に行っている。2023年度の手術症例のうち、8%が15歳以下の小児例であった。小児脳神経外科に関しては、岡山大学病院や川崎医科大学総合医療センターの小児神経外科認定医とも連携しながら診療を行っている。

引き続き、『信頼できる脳神経外科』であり続けられるよう、地域医療における役割を果たしていく所存である。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 75 件

	手術名	件数
1	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	27
2	頭蓋内血腫除去術 (脳内)	11
3	水頭症手術	9
4	頭蓋内腫瘍摘出術	8
5	脳動脈瘤頸部クリッピング術	6
6	内頸動脈血栓内膜摘出術	1
7	頭蓋内微小血管減圧術(三叉神経痛)	1
8	バクロフェンポンプ交換術	1
9	その他	12
	計	75

● 研究業績

学会発表

- 自己免疫性の血液凝固異常に起因する非外傷性急性硬膜下血腫に対し hinge 型減圧開頭を併用して血腫除去を行った1手術例
吉田 秀行
第51回日本小児神経外科学会

2023年6月10日

- 驚愕発作を伴う前頭葉てんかんに対して外科治療が奏功した1例

近藤 聡彦
第 56 回日本てんかん学会学術集会

2023 年 10 月 20 日

- 3) 外科治療にて驚愕発作が消失した 1 例
近藤 聡彦
第 82 回日本脳神経外科学会総会

2023 年 10 月 25 日～10 月 27 日